

## 都内中小企業のものづくりを支援する 製品開発支援ラボ

都産技研では、都内中小企業の製品開発を支援する製品開発支援ラボを、本部に19室、多摩テクノプラザに5室開設しています。製品開発支援ラボは、24時間を通じて研究や実験が可能な賃借スペースで、本部には入居企業が利用できる化学実験室や試作加工室を共用スペースとして備えています。さらに経験豊かなラボマネージャーが、都産技研の利用や製品開発、市場への販売に関する相談に対応しています。入居対象は、新たな製品や技術の開発予定がある中小企業または起業予定の個人です。入居期間は原則として3年以内ですが、開発状況によっては最大5年まで延長することができます。

製品開発支援ラボの詳細：URL：<https://www.iri-tokyo.jp/site/kenkyu/lab.html>

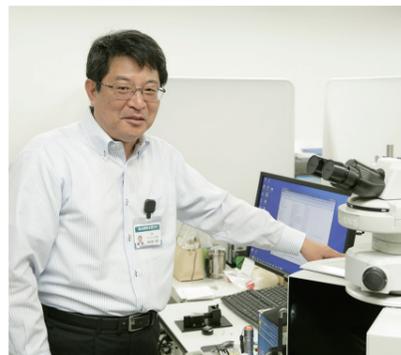
### お知らせ

9月8日（金）に都産技研本部で開催される INNOVESTA!2017 ビジネスデーでは、今回ご紹介するクスノキ石灰株式会社を含めた入居企業5社の製品展示コーナーがあります（1階エントランス）。入居企業の方も説明員として参加されますので、ぜひお立ち寄りください。URL：[https://www.tiri-innovesta.jp/business\\_day/index.html](https://www.tiri-innovesta.jp/business_day/index.html)

### 入居企業の紹介 ①

#### 創業とともに製品開発支援ラボに入居。順調に製品開発が進展

アイリックス株式会社



代表取締役社長 須納瀬 正範 氏

できました。そのため、この4年間で国や東京都のラマン分光装置関連のプロジェクトを5件獲得・実施しました。その中には、都産技研バイオ応用技術グループ、東京医科大学との共同研究にて、蛍光やラマン分光法により観察した細胞の領域をレーザーマイクロダイセクションにて単離・抽出する試作機の開発を行いました。このほかにも、火山ガス遠隔モニターの開発やCVD合成ダイヤモンドの素材研究に着手し、順調に事業を拡大しています。

2013年4月に創業したアイリックス株式会社は、分光法を用いた先端技術を提供するベンチャー企業です。自社製品の研究開発のほか、細胞を可視化して、3Dでリアルタイムに観察するGEヘルスケア製最先端イメージング装置などを産学の研究機関に輸入販売する事業を展開しています。創業から2カ月後に製品開発支援ラボに入居したことで、本格的に研究開発ができる環境を整備

「製品開発支援ラボは、24時間使用可能で、200Vの機器にも対応できる電源設備を有する堅牢な研究施設です。時間の制約に捉われることなく、昼夜連続で試験を行えるため、ハイスピードな研究開発を実現でき、大きなメリットを感じています。さらに、実験・研究をするだけでなく、完成した製品の販促カタログなどを制作する際にも、デザイ

ン部門があるため、施設内のスタジオで機器を利用した製品の撮影やポスター作成などの相談ができます。そのため、販売サポート面でも比較的低コストでクオリティの高いものを活用できます。さらにラボマネージャーから東京都や国の助成金などのさまざまな情報もこまめに提供していただけるのもメリットですね。今後もこの環境を最大限に活かした、当社らしい製品開発に邁進していきます」(須納瀬氏)

### 研究開発紹介



医薬品やバイオへの適用が期待される共焦点ラマン分光装置

### 効率的な研究開発・技術開発のコンシェルジュ ラボマネージャーが全面的に入居企業をサポート

ラボマネージャーは、製品開発支援ラボの入居企業が効率的に研究開発・技術開発を行い、製品として完成度を高めて商品化するまでを、総合的にサポートするコンシェルジュです。各企業の研究開発を把握して、さまざまな相談にスムーズに対応することはもちろん、都産技研との共同研究や入居企業同士の交流のほか、(公財)東京都中小企業振興公社や東京都の助成金などの情報提供やPRな

どのコーディネイトも積極的に行っています。入居企業の方々には、積極的にラボマネージャーを活用して、課題解決に役立ててもらいたいと考えています。

入居を検討される企業や個人の皆さまには、都産技研や製品開発支援ラボをどのように活用されたいか、またどのようなことができるのか、ぜひお気軽にご相談ください。



ラボマネージャー  
榎本 博司

### 入居企業の紹介 ②

#### 共同研究が縁で入居。環境保護製品で世界をめざす

クスノキ石灰株式会社



代表取締役社長 博士(工学) 池田 勝利 氏

地球温暖化の原因である二酸化炭素を製品価値へリサイクルするクスノキ石灰株式会社の池田社長は、2000年以上の時を超えてなお現存するローマ時代の建築物の素材である石灰に注目しました。さらにカルシウムイオンと水中に溶け込んだ二酸化炭素を結合させて成長するサンゴや貝にヒントを得て、石灰と二酸化炭素を原料として、焼き込む工程を経ずに硬化させた「カルシウムセ

ラミックス」の技術を2008年11月に完成(2013年1月に特許取得)させました。このカルシウムセラミックスの新たな用途開発に共同研究材料を、都産技研へ持ち込んだことが縁で製品開発支援ラボのことを知り、2017年5月に入居しました。「製品開発支援ラボは、都産技研や入居されている企業の研究者が交流できる場所です。私も建築の構造設計の専門家として力学系や材料関係、強度関係については知見がありますが、化学的な分野などについては、まだまだ知識不足ですね。ここにはさまざまな専門家がおられますから、いろいろと相談や議論ができる心強い環境だと実感しています。カルシウムセラミックスでは、すでにコースターなどの生活雑貨や内装用タイルなどをイタリア伝統の天然顔料で着色し商品化していますが、課題は市場にアピールする販売活動です。その点でも都産技研や東京都

の支援を受けていることは、非焼成による消費エネルギーの削減や環境と調和した素材の魅力を訴求する上で、大きな意味を持ちます。2020年の東京オリンピックを契機として、日本はもちろん世界中に、環境問題の厄介者である二酸化炭素を活用したものづくりに転換できるカルシウムセラミックスを広めていきます」(池田氏)

### 研究開発紹介



吸水力や消臭、抗菌、防カビにも優れたカルシウムセラミックス